



1日(水)に、初声市民センター主催の「みちしお学級」の第3回として、初声中学校の藪崎先生が、「煮干の解剖」の授業を行いました。対象は、小学生13人と保護者9人です。初声小学校の石渡先生がお手伝いをしてくれました。本研究所が協力して実現しました。



最初に、藪崎先生から、同じ煮干しでも、胸びれが前に付いている方が、後ろについているものより、進化が進んでいる、胸びれは、人間の手にあたる、というお話があり、子どもたちの興味・関心を高めていきます。

その後、解剖に移り、水晶体、えら、さいは(プランクトンなどのエサを漉す役目をする)、脳、肝臓、胃、背骨などを取り出し、シートにセロテープで張り付けていきます。中には、耳石まで発見した子どもも。右上の写真が完成したものです。



子どもたちは、えらや水晶体などを顕微鏡で見て、驚きの声を上げていました。



子どもたちにも、保護者の皆さんにも、たいへん好評で、次年度も、こういう体験活動をお願いしたいという声も聞かれました。



3日(金)、小中学校の社会科部会の先生が、新しくできたマグロ専用の低温卸売市場を見学しました。



最初に、沿岸物を扱う旧魚市場を見学しました。その後、低温卸売市場へ。マグロが並ぶ部屋の室温は16℃くらいだそうです。衛生面にかなり配慮した造りになっていて、長靴も白いものに統一されていました。



見学後、会議室で、ボランティアの方の、マグロや魚市場についてのくわしい説明を聞きました。

7月27日(金)は、日本財団、笹川平和財団海洋政策研究所、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター共催の「海洋教育教員研修プログラム」で、三浦市の海洋教育について30分ほど話してきました。三浦市からは、旭小学校の中山教頭先生、初声中学校の藪崎先生が参加しました。

3月1日より先生方のPC上に、「海洋教育カリキュラム一覧」というリンクアイコンが存在しています。海洋教育カリキュラムを投稿、閲覧可能なイントラネットサイトです。すでに、20本の実践例がアップされています。皆さんの実践を共有できるように、積極的に投稿、閲覧してください。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで